

Rotary
2018-19 年度 国際ロータリーのテーマ
インスピレーションになる
2018-19 年度 国際ロータリー会長バリー・ラシン
RI 2630 地区 岐阜東濃グループ



本日の例会プログラム

1. 開会点鐘
2. ソング = 「我等の生業」
3. ゲスト、ビジターの紹介
4. 食事と交歓
5. 会長の時間
6. 雑誌の紹介
7. 出席報告、コホックス発表、委員会報告、幹事報告
8. 卓話 間 龍一郎君 / 地域活動委員会担当
「十日恵比寿について」
9. 閉会点鐘

卓話者紹介



間 龍一郎君 (はざま りゅういちろう)
1956年(昭和31年)1月25日生まれ
勤務先：はざま酒造(株)

略歴

昭和54年 中央大学卒業
平成06年 はざま酒造(株) 取締役社長
平成10年 中津川RC入会

会長の時間

田口義也会長



さて、会長の時間として話をできるのも半年となりましたので、私の職業についての話も今後進めていきたいと思っています。昨年は未開の地インドネシアカリマンタン島での基準点測量や水準測量の話をさせて頂きましたが、今日は北アフリカに位置しますチュニジア共和国における地形図作成プロジェクトに参加した時の話をしたいと思います。これも随分と古い話で恐縮ですが、何とか記憶をたどり報告できればと思っています。

このプロジェクトは、前回と同じく JAICA の仕事で国土地理院をはじめ、国内の企業5社からなる総勢14人によるチュニジア全土の八万分の一地形図を作成するというものでした。チュニジアは地中海に面し、アルジェリアとリビアに挟まれた総面積163,600平方キロメートルと北海道の2倍ほどの面積をもつ国です。

日本ではサッカーでお馴染みの国ですが、当時から町のいたるところで子供たちがサッカーを楽しみ 試合がある日などはスタジアムの周辺はすごく混雑していました。我々の宿泊施設は首都チュニスから車で30分ほどの町「ラ・マルサ」だったと思います。歩いて3分ほどで地中海チュニス湾に出ることが出来ます。

チュニジアでの仕事は、毎日チュニスのラボまで通い、事前に撮影された空中写真から道路や鉄道の形状、種別の判読、集落の範囲を確定する作業を行い、後に現地調査に出かけるといったものでした。

特に田舎では、井戸の周辺を1つの集落と位置付けるためにラクダ等が水を運ぶために通る写真上の筋の様なものを見つけ、後に現地確認するという作業が主なものでした。

そのため、現地調査では道なき道を400kmから600km空中写真を片手に日本から輸送したランクルで走り回る毎日でした。チームはドライバーと通訳と私の3人が一班となり北は地中海南はサハラ砂漠までと、行き当たりばったりでホテルに宿泊しながら一回の調査で10日間ほどの出張に出かけました。

楽しみだったのは、チュニジアという国は紀元前9世紀から都市国家カルタゴとして栄えた文明があり、至る所にカルタゴやローマ帝国時代の遺跡があり、世界遺産に指定されています。巨大な大理石の柱や、スタジアム、水管橋、下水道跡、また、共同浴場跡「アントニヌス浴場」は、なんと総面積35,000平方メートルもあり、(長辺が200m)とても紀元前のもものとは考えられないアミューズメントセンターとして人々のコミュニケーションの場として栄え、人類は昔今以上の文化が栄えていたような錯覚に陥った事を覚えています。ただ、どれもがローマ帝国により、征服された際に壊されたものばかりで、その規模や美しさは想像の世界でしかないのが歴史かなあと感じました。今日は時間が足りなくなってしまうので、また続きを来週させていただきますので宜しくお願いします。ありがとうございました。

例会日 木曜日
会場 中津川商工会議所 3F
事務所 中津川商工会議所 3F

Tel. 0573-66-9933 Fax. 0573-66-8766
E-mail : n-rc@takenet.or.jp
HP : http://nakatsugawa-rc.jp

会長 田口 義也
幹事 志津 竜良
会報 山本 亮